
ある兄弟

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある兄弟

【著者名】

「Zコード」

「Z5209」

【作者名】 並盛りライス

【あらすじ】

これは私の主觀と誇大妄想の物語である。ファミリーレストランで私はある家族に遭遇する。聞こえてくる会話が妙に気になつて、無関係にも関わらず余計な事を考えてしまつ。

ファミリーレストランで私は物思いに耽っていた。

こんなふうに書くと何となく気取つてゐみたいで嫌なのだが、単にまとまらない考えを浮かんでは消し、消しては浮かびあがらせていたに過ぎない。

すると隣りの席に家族づれの親子とおじいちゃんが現れた。

幼い兄弟が二人いるせいか、少し煩いように感じたが、努めて気にしないようにしていた。

その日は、人と待ち合わせをしていたのだが、都合が悪くなつて遅れるという電話があつたばかりだつた。

私は少し早かつたが仕方なく、お昼のランチを注文した。隣りの席でも日替わりランチやお子様セットなどを注文していて、店内もそろそろお昼のお客で賑わつてきそうだつた。

私は料理が来るまでの間、持つてきた資料に目を通していた。これから書こうとしている小説の簡単なプロットで、昨夜、二時間くらいで考えた拙いものだ。

すぐに頼んでいたランチがきたので私は資料を仕舞つて料理を食べる事にした。

隣りの席にも料理が運ばれてきて自然と会話も、食べ物に関するものが多くつた。

「お母さんとおじいちゃんと僕のランチは同じだね」

少年のうちの恐らく弟が、ランチの内容について話していた。

「お父さんのランチも似てるね」

「そうね」

と微笑ましい会話だつた。

そして、全員の料理が出揃つた所でまた弟の方が言つた。

「みんな一緒だ」

赤の他人である私はそれを聞いてなぜかドキッとした。

「このファミリーレストランのランチには付け合わせにサラダがあり、日替わりランチ等には必ずついている。もちろんお子様ランチにもついていた。

そして、少年の弟はその事が言いたいのだと分かった。

けれど実は、このファミリーレストランのランチには洋と和の二種類があり、兄の方はうどんのついたセットを頼んでいたのだ。みんな一緒にいながら兄である彼一人はランチの内容が少し違う。

私は余計な事に気付いてしまったが、一端気付いてしまったものだから気になつて仕方がない。

まあ、子供の無邪気な発言を気に止めるのは辞めよう。私はそのまま自分のランチを食べる事にした。

しかし、弟くんはさらに

「これと、これがお母さんと一緒に、これがおじいちゃんと一緒にだね」と先ほどよりも少し大きい声で言ひはじめた。

「そ、そうね。そろそろ食べよつか」と母親が気を利かして話を逸らす。

「みんな同じだよ」

私は思つた。ここつは全部分かつてやつているんじゃないだろうか。

子供は無垢な天使のようなものだと私は思つてゐる。そして事実、そうかもしれない。

だが、この弟くんのしつけは何だらう。

私は悲しくなつた。

きっと、お兄ちゃんは酷く傷付いたんじゃないだろうか。

家族の中で自分だけが同じではないとこつことに。

弟くんの発言はその事実をこの楽しげな食卓に突き付けてしまつた。

そこに悪意があるかどうか、私には分からぬが、少なくとも弟

くんはお兄ちゃんを精神的に追い詰めていた。
私は思わずお兄ちゃんに同情してしまった。
なんて仕打ちだらう。

私が彼の立場なら泣いてしまいそうだ。
実は私は長男で、同じように弟が一人居る。だからせりに情が沸くのだろう。

「お兄ちゃんは、おうどんだからね」

「そうそう」

と両親はフォローに回りだした。

私はあまりジロジロ見る事はしなかつたが、お兄ちゃんが絶句しているのを空氣で感じていた。

居たたまれなくなつた私は思わずドリンクバーへと向かつた。
「みんな同じだよ」

まだ言うか「イツ。

赤の他人である私は弟くんに心の中で毒づいた。

その時、遅れてきた編集者の男が入口からこちらに向かつてきた。

「赤西君、兄弟は居るの？」

「は？」

家族は最も親しい存在でありながら、最も厄介な敵なのではないだろうか。

そんな事を思いながら、私は食べかけのうどんセットを駿つた。

これは私の主觀と誇大妄想の物語である。

きっと子供は純粹な天使であつて、こんな風にゆがんだ考え方をしている私の方が汚れきつてしまつたのだと思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5209j/>

ある兄弟

2010年10月18日10時59分発行